会員だより

縁起絵巻が繋ぐ人の縁

あと半月経てばさぞかし紅葉が美しかろうと思われる10月25日、大阪の信州と呼ばれる能勢町まで探検気分でドライブしてきました。

目的は能勢町町役場の隣にある浄瑠璃シアターで東大高岸輝准教授による「槻（月）峯寺建立修行縁起絵巻」の復元記念講演に行く事でした。槻（月）峯寺とはさらに北部にある剣尾山の山頂にあったお寺です。復元絵巻と当日講演について産経や朝日に大きく取り上げられました。教授の説によると、室町時代、丹波・摂津の領主であった細川政元が経済力と軍事力の顕示のため土佐光信に描かせ、奉納したのは確かであろうということでした。幅35cm、長さ21mの大作の中に、摂津の長洲の浦（現在尼崎市）から光輝く剣尾山への出来事が描かれて、本物は現在アメリカ、ワシントン州、スミソニアン博物館に所属するフリーア美術館が貸出禁止としている所有品です。そこで能勢の5人が複製作りの実行委員会として立ちあげ、デジタル印刷技術専門の法人に依頼して、見事に復元されました。その

木の温もりを大事にした設計

リーダーが清水コミセンの元パソコン生徒のクラスメートというご縁で、平均年齢70歳を超える元麗しき女性6人が同乗することになりました。車内の様子は御想像にお任せします。

もう一つの目的はリーダーの紹介でシアターよりさらに北部の能勢温泉近くのレストランに行く事でした。車1台しか通れないような道にはいっていくと、洒落た別荘風の建物や別棟ログハウス、テント下でのベンチ、花壇、物作り台などが木漏れ日につつまれて、ほっこりと存在しています。きっとネットでしらべてきたのか、若者が沢山食事やコーヒーを楽しんでいました。私達も美味しい食事を楽しみました。こちらの方が今回の目的の本命だったかも知れません。

九つのトンネルを通り抜け、これでも大阪府かと思われる遠い所でしたが、知識と食欲と道の駅の特産物買物に満足する一日でした。

記：上村サト子

槻峯寺建立修行縁起絵巻（復元）を見る

熊野古道中辺路

「参詣も回数多ければご利益大きいですか」10月17日

今回は6月9日にゴールした発心門王子から本宮大社までのコースを歩く。昔の参詣者はこの辺りからはいろんな派生したルートを利用していたらしい。今日の語り部は女性の現役修験者で、発心門王子の前で、法螺貝を吹いて、安全祈願を祈って下さる。「ホラは吹きません、本物の法螺貝です」と。山の中の集落に入って、歩きやすい静かな車も通らない舗装道路が続く。村人はユーモアがあるらしく、あちこちに面白い案山子や木彫人形を作っている。斬新な石の模様が施された玄関のある小学校分校は廃校になっている。その隣に水呑王子がある。前垂れをあげると地蔵さんの胴体に割れ目があり、その間にお賽銭を指し込めば腰痛に効くと言う。早速ご利益をと五円玉を差し入れる。直ぐ傍に外科通りと呼ばれる田舎道に外科と歯科があったというから、もっと賑やかな村だったのだろう

綺麗な茶畑や無人販売所を見ながら、伏拝王子に着く。中辺路参詣者がここから初めて熊野本宮大社を見る事になる為、伏して拝んだことからこの名が付いたらしい。それより私にとって最高に嬉しかったのは王子への石段の登り口に〝紀伊（黄）上藦杜鵑（きいじようろうほととぎす）〟の咲いているのを見る事が出来た事だ。私も栽培種を植えたが、気難しく2年目は咲かなかった。上藦とは身分の高い貴婦人の事、大奥では上級女性の意。

杉や檜に囲まれた緑のトンネルを歩き、三軒茶屋跡や関所跡を通り、祓戸王子に出る。いよいよここで最後の清めをし、本宮大社に参拝したらしい。私達も旅行社の計らいで宮司の特別説明と正式参拝が組まれていたが、信心薄い不届き者にとって馬耳東風、それより拝壇の両脇にある歴史的サッカーボール展示棚と黒いポストの上のやたがらすの3本足を確かめたかった。とにかく二ヶ月も続けて熊野本宮大社をお参りしたお蔭で、腰痛に悩む私が今日も7Kmの道を歩けるようになったのが大きいご利益と思う事にしよう。

記：上村サト子

村人のアートの案山

九鬼ケ口関所跡

熊野古道の記録を拝見して

伊勢路から今度は紀州路の熊野古道へ上村さんの行動力にはほんとに敬服いたします。

私は60代のころ、奈良大学の先日亡くなられた水野正義先生の生駒ゼミ（生駒市の女性の10人くらいの集まりで、先生に月1回講義をしていただいていました。

その会の5周年の記念事業として熊野古道を歩くことになり、大阪天満橋の、お公家さんたちが、京都から船で着いたという、八軒屋船着場から出発して、月1回、二年数ヶ月かけて、熊野本宮まで歩きました。

写真に出てくる、各王子を懐かしく思い出しました。若いころから足の弱い私はみんなについてゆくのが精一杯でたいへんでしたが、伏拝王子から遥かに本宮大社が見えたときは、ほんとに涙がこぼれました。中辺路の途中から引き返せない（エスケープできない）ところは、やむを得ず欠席するという情けなさでした。熊野本宮へ着いたのはちょうど桜が満開のときで、そのときは水野先生も参加され、代表で本宮のあの囲いの中まで入って参拝され、そこへは明治時代のなんとか言う（忘れました）偉い人も入れなかったのにと喜んでおられました。

記：牧戸富美子